

日本小児科学会 医療安全委員会主催 第10回SECUREコース

(Sedation Essence in Children Under Restricted Environment)

「MRI検査時の鎮静に関する共同提言」実践コース

2019年7月20日 場所：大阪医科大学

参加施設

グループ	担当	施設名		
A	西原 山中/坂本	奈良県 総合医療センター	和泉市立 総合医療センター	岸和田徳洲会病院
B	松永 草川	日本赤十字社 和歌山医療センター	加古川中央 市民病院	京都第二赤十字病院
C	池山 大嶽	大阪母子 医療センター	近畿大学病院	滋賀県立小児 保健医療センター
D	福井 久我/阪井	姫路赤十字病院	神戸市立医療センター 西市民病院	大津赤十字病院

第1部 座学 (30分)

①開会の挨拶



杏林大学小児科
楊 担当理事

②共同提言の要点



山中委員の講義
を聴講

第2部 ハンズオン (50分)

シナリオをもとに、MRI環境下での小児の急変に対して自施設での問題点を考える。
他施設と比較して自施設の強みと弱みを把握する。

MRI撮影中に1歳男児の
SpO2が90%を切った！



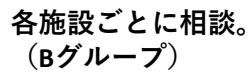
MRI室周辺の様子や緊急時の対応について確認。
人形をつかいながら、実際の動きを各施設ごとにシュミ
レーションし、問題点の共有を行う。
(Aグループ、Dグループ)



他施設の状況もふまえて意見交換。
自施設についても振り返り。
(Bグループ)

各施設とも
医師・看護師・放射線技師
の3人で参加

自施設の問題点とアクションプランを立案し、SECUREコース終了後の具体的な計画を提示する。



ファシリテーターがアドバイスを
行いながら、アクションプランの作成。
(Cグループ) (Dグループ)

- 

コース2度目の参加施設が、前回参加後の状況を踏まえて新たなアクションプランを発表。関心の高さがうかがえた。医師の参加はほとんど小児科医だが、放射線科医が参加してくださったこともあり、総合討論ではそれぞれの立場から意見交換がなされた。

計画内容	
1か月以内	★ 学習指導要領、教科書、授業計画の作成、教材の準備等（1週間） ① 教科書の分析・整理 ② 教科書の活用方法の検討 ③ 教科書の活用方法の実践 ④ 教科書の活用方法の評価
3か月以内	⑤ 教科書の活用方法の改善 ⑥ 教科書の活用方法の普及 ⑦ 教科書の活用方法の研究 ⑧ 教科書の活用方法の発表
6か月以内	⑨ 教科書の活用方法のまとめ ⑩ 教科書の活用方法の振り返り ⑪ 教科書の活用方法の今後の展望
想定される課題	教科書の活用方法の不明確さ
協力者	教科書研究員、教科書編集者、教科書出版会社

計画内容	計画をとりわけ検討事項・施策の検討事項を明確に
1か月以内	① 計画の進捗状況の把握 ② 計画の進捗状況の把握 ③ 計画の進捗状況の把握 ④ 計画の進捗状況の把握 ⑤ 計画の進捗状況の把握
3か月以内	① 計画の進捗状況の把握 ② 計画の進捗状況の把握 ③ 計画の進捗状況の把握 ④ 計画の進捗状況の把握 ⑤ 計画の進捗状況の把握
6か月以内	① 計画の進捗状況の把握 ② 計画の進捗状況の把握 ③ 計画の進捗状況の把握 ④ 計画の進捗状況の把握 ⑤ 計画の進捗状況の把握
想定される課題	① 計画の進捗状況の把握 ② 計画の進捗状況の把握 ③ 計画の進捗状況の把握 ④ 計画の進捗状況の把握 ⑤ 計画の進捗状況の把握
協力者	① 計画の進捗状況の把握 ② 計画の進捗状況の把握 ③ 計画の進捗状況の把握 ④ 計画の進捗状況の把握 ⑤ 計画の進捗状況の把握

[illegible]

「コース全体の満足度は？」 5.17 点(6点満点)
「安全な環境整備に対する意欲が向上したか？」 5.35点 (同)
「多職種での参加は良かったか？」 5.55点(同)

- ・多職種の意見が聞けて良かった。
- ・他病院の現状、自身の病院の現状を合わせて見直すことで、今後の鎮静時の対応を考え直すことができた。
- ・同じグループ内の他施設の状況は参考になってよかった。
他のグループの施設の状況も知りたかった。
などの意見があがった。

次回、第11回SECUREコースは2019年11月2日に北海道大学で開催予定